

⑩ 日本国特許庁(JP) ⑪ 特許出願公開  
⑫ 公開特許公報(A) 昭63-30883

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>  
G 09 B 5/04

識別記号 庁内整理番号  
6612-2C

⑭ 公開 昭和63年(1988)2月9日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 外国語会話学習システム

⑯ 特 願 昭61-173753

⑰ 出 願 昭61(1986)7月25日

⑱ 発 明 者 河 上 徹 神奈川県相模原市南台1-3-8  
⑲ 出 願 人 国際音声サービス株式 東京都渋谷区代々木2丁目21番11号  
会社  
⑳ 代 理 人 弁理士 黒田 泰弘

明 細 書

1. 発明の名称 外国語会話学習システム

2. 特許請求の範囲

磁気ディスクとディスクプレーヤ、磁気テープとカセットプレーヤなど録音媒体と再生機器とを用いた外国語学習システムにおいて、母国語センテンスに続き、これに対応する外国語センテンスが現われ一定の無音時間を置いた後前記外国語センテンスが現われ再び無音時間が現われるサイクルが多数回反復される会話学習部が右耳用伝音部材に再生され、これと併行して左耳用伝音部材に音楽等の感性情報が再生されるように構成したことを特徴とする外国語会話学習システム。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は新規な外国語会話学習システムに関するものである。

〔従来の技術とその問題点〕

国際交流や貿易の盛んとなった今日において、外国語会話は以前に増し重要なものとなっている。

このため、外国語会話の学習、訓練用教材として、連語、文例、物語を印刷した視覚教材や、カセットテープやレコード等の聴覚教材など多種多様なものが提案されている。

しかしながら、従来の聴覚式外国語会話学習教材は、たとえば、「I am a boy, I am a girl, I am a child, He is my father」というように、単に視覚教材に記述されている内容の多数のセンテンスや物語を、一定順序で羅列した構成となっていたので、一度に多量なしかも音段聞き慣れない外国語音声が多量に聴取されることにより、学習者の頭脳にかえって混乱が生じ、その結果、外国語特有の微妙なアクセントやニュアンスが正確に伝達されず、またほとんど記憶に残らず、したがってまた正確に発音されぬままの学習形態となるという問題があった。

しかも、語学学習には学習対象の言語が徹底して右耳だけに入ることが脳の左右の機能上理想的であるが、従来では外部から学習対象言語以外の多量な雑音が入るため、大脳生理学上も弱点が多

く、費用と時間を費やしてもはかばかしい成果が得られないのが実情であった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は前記のような実情から研究して創案されたもので、その目的とするところは、だれでも極めて簡単に、かつ短時間の内に外国語会話に習熟し、正確に外国語会話を行えまた疲労感も少ない外国語会話学習システムを提供することにある。

この目的を達成するため本発明は、ディスクプレーヤと磁気ディスク、もしくはカセットプレーヤと磁気テープなどの録音媒体と再生機器とを用いた外国語学習システムにおいて、母国語センテンスに続き、これに対応する外国語センテンスが現われ一定の無音時間を置いた後前記外国語センテンスが現われ再び無音時間が現われるサイクルが多数回反復される会話学習部が右耳用伝音部材に再生され、これと併行して左耳用伝音部材に音楽等の感性情報が再生されるように構成したシステムとしたものである。

〔実施例〕

音に要する時間程度に相当するポーズCを残設する。

そして、以下前記外国語センテンスBとポーズCとを多数回(たとえば30回)にわたり繰返し形成し、最後のポーズCのあとに適度の間隔を置いて、前記母国語センテンスAと異なる内容の母国語センテンスA'たとえば「お会いできてうれしく思います」を磁化形成し、これに続き、該当する外国語センテンスB'「Sono molto lieto」を磁化形成するとともに、前回と同様にポーズC'を残設し、以下同様に外国語センテンスB'とポーズC'とのサイクルを多数回にわたり形成する。

以下同様に、前記ポーズC'に続き母国語センテンスA''を形成し、これの外国語センテンスB''とポーズC''とを多数回繰返し形成し、これをもって会話学習部を得るのである。

一例としては、1つの外国語センテンスを3秒とし、ポーズを3秒とし、このサイクルを30回繰繰り返す。これでひとつのセンテンスの学習所要時間は3分となり、片面録音30分の仕様のテー

以下本発明の実施例を添付図面に基いて説明する。

第1図と第2図は本発明の外国語会話学習システムをテーププレーヤ方式に適用した実施例を示すもので、1はカセットテープ、2、2'はカセットケーシングに内蔵されたテープリール、3はテープリールに巻回された磁気テープ、4はテーププレーヤ、5aは右耳用イヤホン、5bは左耳用イヤホンである。

本発明は、前記カセットテープ1として特殊なステレオ録音形態とした磁気テープ3を使用するもので、すなわち、第2図で模式的に示すごとく、右耳用イヤホン5aに対応する磁気テープ3の始端部に、まず所望の母国語からなるセンテンス(会話文)Aたとえば、「あなたのお名前は何かというのですか」を磁化形成するとともに、これに続いて、前記母国語センテンスAに対応する所定外国語センテンス(会話文)Bたとえば、「Posso avere il suo nome」を磁化形成し、さらにこの外国語センテンスBの次に、該センテンスの通常の発

ブであれば、10の会話学習部が形成され、したがって1本のカセットで20の外国語センテンスが学習される。

なお、母国語センテンスA、A'は、発音の特徴や注意点などのガイドを有するものを含む。また、外国語センテンスBと次の外国語センテンスB'は、それぞれ共通の母国語センテンスAに対応するもの。たとえば母国語センテンスAが日本語であるとして、外国語センテンスBをイタリア語に、外国語センテンスBをフランス語のように構成してもよい。

そして本発明はさらに、左耳用イヤホン5bに対応する側のテープ部分に、前記母国語センテンスA、A'、ポーズC、C'、外国語センテンスB、B'にまたがって継続的に、感性情報部Dすなわち好適には西洋楽器音などのからなる清澄な音楽、場合によってはハミング、自然の音(小川のせせらぎなど)を録音するものである。

第3図(a)(b)は、ステレオ式のディスクプレーヤ4'と磁気ディスク1'に本発明を適用した実

施例を示すもので、6はディスクターンテーブル、7はレーザ型ピックアップであり、信号検出用ビームとトラッキング信号を読み取る複数のトラッキングサーボ用ビームなどから構成されている。

磁気ディスク1には、第3図(b)で模式的に示すように、会話学習部ビット列が右耳用レシーバ5aで再生されるように刻設され、また、感性情報部Dの記録ビット列が左耳用レシーバ5bで再生されるように刻設されている。前記会話学習部と感性情報部詳細については、さきの磁気テープの場合と同じであるため説明を省略する。

実施に当っては、前記カセット1または磁気ディスクを日常会話に必要な数作り、適宜ステレオ式のテーププレーヤ4またはディスクプレーヤ4'に装填して再生するものである。

これにより第4図のフローチャートのごとく、右耳用イヤホンまたはレシーバ5aでは、まず母国語のセンテンスAが再生される。これは日常聞きなれた言語であるため、スムーズに聴取され、その意味がはつきりと確認、記憶される。

従来のような種々雑多な会話を連続的に聴取させる方式では、いたずらに聴覚や脳波を混乱させるだけで、せいぜい全体がごく薄い記憶として残るに止まり、一定の会話の細部までを正確に聞き分けたり、正確に発音することは困難であった。

本発明は上記のように正確に発音された一つの会話を、聴覚が十分に慣れ、正確に記憶されるまで反復聴取させ、それから別の会話文について同じように会話訓練させることから、大脳生理学のメカニズムにマッチした適切な外国語会話習熟システムとすることができる。

詳述すると、まず、日常生活で使用する言葉をまず母国語(日本語)で聞くことで、言葉の表現が明確にイメージされる。そして、母国語音声表現に対応する言葉を、その次に聞くことにより、条件反射的に母国語から外国語へ、言葉の意味による記憶の連結が行われる。

そして、その外国語を連続して多数回ポーズを介在して聞くことにより、聞き慣れない外国語音声が集約して記憶中枢に作用し、また一方ではそ

次いで、前記母国語センテンスAに対応する外国語センテンスBが再生され、これに続きすぐに外国語センテンスBが現われるのではなく、一定時間のポーズすなわち無音部Cが再生され、また再び外国語センテンス部Bが再生され、ポーズ部Cがそれに続き、このサイクルが所定回数反復される。当該会話が終わると、同様に次の母国語センテンスA'が再生され、これに続き、外国語センテンスB' - ポーズ部C' - 外国語センテンスB' - ポーズC'が再生聴取される。

本発明では、同一の外国語会話文が連続して多数回聞え、この連続して多数回聞こえる外国語会話文の間に必ずポーズが置かれるのであり、このポーズはテーププレーヤ4やディスクプレーヤ4'のスイッチ操作を何ら要しないため、学習に途切れが無い。

そして、これと同時に、左耳用イヤホンまたはレシーバ5bには、感性情報部Dの録音たとえばクラシック音楽が継続的に再生聴取される。

〔実施例の作用〕

それぞれのポーズで発声練習を行うことで、慣れない発声器官が集中訓練され、連続的に発声が修正され、段階的に外国語のヒヤリングとスピーキングが正確に修得されるのである。

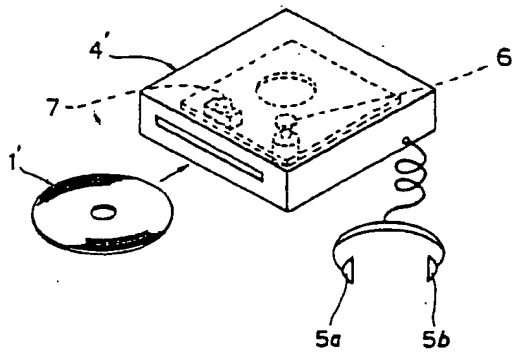
日常聞き慣れない言葉であっても、これを多数回にわたり自動的に集中して聴取することで記憶中枢が刺激されるとともに、外国語の違和感が減れていつしか聞き慣れた言語化し、時間の経過と共に微妙なアクセントやイントネーションまでもが記憶される。そして、このような記憶化と並行して各回のポーズごとに発音を行えば、このポーズは前後が外国語会話文に挟まれていることから、これに対する発声状態の差異が峻別され、未開拓の発声器官が刺激され、徐々に外国語に近似した発声状態へと修正できるものである。

しかも本発明では、この会話学習を専ら右耳から聴取させ、同時かつ平行的に左耳からクラシック音楽、ジャズなどの心地よい音声を聴取させるので、学習言語以外の言語を含む外部妨害音が全く入らず、言語機能を司る左脳に集中して学習言

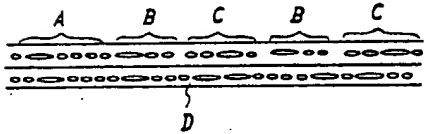


第3図

(a)



(b)



第4図

